

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 中間評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀市立開成小学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校教育目標の実現に向けて、職員が「心の教育」に積極的に取り組み、児童の豊かな人間性の涵養に努め、児童の意識調査から目標以上の成果が得られたことがうかがえた。R 6年度は取り組みの発展的継続を図る。 ・生徒指導と学級経営に関する児童の意識調査は良好な結果が得られたが、実践が伴わない「しているつもり」の児童がいると感じる。生徒指導の徹底のために具体的な行動目標を全校で共有するなどの取り組みの改善を図る。 ・特別支援学級在籍児童が自分のペースに合わせて学習したり、通常学級において学力差に応じて個別に学習課題を提示したりと、学習者用端末を積極的に利活用した学習指導に取り組み始めている。 ・よりよい生活習慣の定着に向け、運動や食、衛生に関する指導を詳細に行い、運動習慣の定着が図られた。午後10時までの就寝や朝食の喫食などの生活習慣に課題を抱える児童がいるため家庭との連携を充実させ、児童の健康増進に努める。
2 学校教育目標	豊かな人間性をそなえ 自ら学ぶたくましい子どもの育成 ～やさしく かしこく たくましく～

3 本年度の重点目標	①生徒指導の徹底と学級経営の充実 ②特別支援教育の充実と学力向上の推進 ③心身の健康維持と自己有用感の醸成
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○校内研究の取り組みを柱とした主体的に学び、考えを深める授業づくり	○単元テスト等で「思考・判断・表現」での80%以上をめざす。	B	・問題解決型の授業スタイルを共通理解し、「自分の考えをもつ」場面、「考えを伝え合う」場面を意識的に多く設定する。	・単元テスト等の「思考・判断・表現」は83.1%で達成している。授業スタイルも共通理解できている。職員同士で授業を見合ったり交換授業を行ったりすることで「自分の考えを持つ場面」や「考えを伝え合う場面」における内容の質の向上に努め、児童の「思考・判断・表現」の向上につなげる。	・		・	学び部 研究主任 学力向上対策コーディネーター	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケート「心の教育」に関する項目で、肯定的に答える児童85%以上をめざす。	A	・人権教室・人権学習会(平和・人権)・道徳等の授業を行い人権尊重の感性を育てる。 ・参観日やフリー参観日において、ふれあい道徳の授業や人権学習等を公開する。(地域連携)	・職員すべてが人権学習の実践に取り組みとともに、委員会を中心にほかほかの実践を推進し、全校児童で取り組んでいる。87.3%の児童が肯定的回答を行っているが、言葉遣いに気になる点が残るので、今後の指導の重点とする。ほとんどの学級で道徳等の授業実践を公開している。	・		・	こころ部 道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「開成小いじめ0宣言を守って生活している」に肯定的回答の児童80%以上。「いじめへの組織的対応を適切にしている」に肯定的回答の教師90%以上をめざす。	A	・「〇月のわたし」や「ほっとタイム」の活用、「気になる子」の情報共有によるいじめの未然防止や早期対応・再発防止に努める。 ・管理職を交えた複数の職員による事実確認や組織的対応をする。	・職員・児童とも、いじめの根絶・早期発見、早期対応に向けて、取り組んでいる(肯定的回答職員95.4%児童95.5%)。今後も引き続き取り組んでいきたい。全児童が、安心して学校生活を送ることができるように、担任から管理職への報告相談体制は確立し、ほとんどの事案に対して組織的に対応できているが、一部担任のみの対応となっているケースがあり今後改善する。	・		・	こころ部 教育相談担当者 生徒指導主事 主幹教諭	
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	B	・「ほかほかの木」と桐りの会等でのいいところ見付けで、直接褒める機会を設ける。 ・キャリアパスポートの活用と見通しをもった活動により自己の成長を振り返らせる。	・100%の職員が児童の良さや頑張りをほめるように意識し児童87.9%の児童が教師からの称賛を満喫している。今後も道徳の授業や日々の活動を通して、児童自身が自信と希望をもてるようにする。将来の夢をもっている児童が87%おり指標は超えているもののキャリアパスポートの活用には課題がある。これから効果的活用を図る。	・		・	こころ部 キャリア教育担当 主幹教諭	
	◎志をもち、主体的な考えをもって、前向きに学校生活を送るための支援の充実	◎Q-Uテストの学校生活満足群50%以上(全国平均約43%)。 ◎保護者意識調査「夢、希望をもつ教育の推進」への肯定的回答80%以上。	B	・定期的個人面談や社会性を高めるトレーニング等に取り組み、発達支持の生徒指導の充実を図る。	・Q-Uテストの学校生活満足群は48%。目標には届かなかったものの、全国の平均値よりも高い値であり、各学級での取り組みを継続する。結果をもとに職員研修を行い、課題の解決に向けた取り組みを行う。将来の夢をもっていると回答した児童は87%。	・		・	こころ部 キャリア教育担当 主幹教諭	
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童60%以上 ②22時までには寝る児童が75%以上 ③「健康に良い食事をしている」児童80%以上	B	①体育科の体づくり運動等の中で多様な遊びやスポーツチャレンジを紹介し、教師も子どもと一緒に外で遊ぶことを推奨し、運動習慣の向上を目指す。 ②1年に2回生活チェック週間を設けて、自分でチェックし、保護者、担任も確認することで、生活を振り返り、改善をめざす。児童の健康に関する情報を積極的に発信する。 ③給食時間の電子黒板の活用や献立を通した食に関する指導を行う。	①児童アンケートの「1日に1時間程度運動をしていますか」は78.9%の児童が達成できた。今後、スポーツ委員会を中心に外で遊ぶ活動を計画し、児童が主体的に体を動かす機会を多く設定する。 ②児童アンケートの「夜22時には寝るようにし、生活リズムを整えていますか」は78.8%達成できた。保健タイムを活用したり、「グッドモーニング60J」の取り組みをしたりして、学校のリズムを作るきっかけを作ることができた。今後も取り組みを継続する。 ③児童アンケートの「健康に良い食事をしていますか」は91.1%達成できた。給食委員会による放送も食に対する意識付けになった。今後も取り組みを継続する。	・		・	すこやか部 体育主任 養護教諭 栄養教諭 保健主事 食育担当	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。	B	・週1回、職員各自が定時退勤日を設定する。 ・行事等の教育課程を精選し、職員が事務処理を行う時間を確保する。	・時間外在校時間の削減について肯定的意見が72%であり不十分。週1回の提示退勤日の設定をより明確にさせ、ライフワークバランスの向上に努める。	・		・	教頭	
	○ICT利活用、行事、会議の精選	○職員会議や研修等にかかる上限時間を80分とし、遵守する。 ○各部から1つ以上の改善案を提言する。	B	・会議資料のペーパーレス化、ischoolの活用を推進し、提案の効率化を図る。 ・3部会で削減の視点で話し合い、「例年通り」を改善する。	・課業日に行う職員会議や研修は80分を上限時間として行っている。ischoolの活用を徹底し、連絡会の短縮を目指していく。 ・行事の精選のため、昨年度の反省を生かして各部で協議後、提案を行っている。「例年通り」を改善するため、早めに話し合いをして提案し、全体で共通理解の上進めていく。	・		・	教務主任 情報化推進リーダー	
●特別支援教育の充実	○子どもの個性や特性を大切に、きめ細やかで効果的な学習指導の充実	○意欲的に学習をすることができたかどうかを児童に4件法で自己評価させ、3.0を目指す。1単位時間や単元等で自己評価させることで、美態を確認する。	B	・主に国語科と算数科において意欲的に学習できるように、個々の児童の特性に合わせて支援する。特別支援学級支援員・生活指導員やICT等も活用する。	・自身の学習への取り組みを意欲的だと肯定的に捉えている児童は85%と高評価であるが1単位時間や単元等での自己評価の実施率は77%とやや低い。授業のUD化やICT機器等の活用を行いながらさらなる児童の実態把握に努め、把握した児童の実態や特性を職員で共有しながら支援に取り組む。	・		・	まなび部 主幹教諭 特別支援コーディネーター	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○生徒指導の徹底と学級経営の充実	○凡事徹底による規律ある集団と豊かな人間関係を育む教育の推進	○「開成スタイル」を実行していると答える児童75%以上をめざす。	A	・「開成スタイル」を全職員が共通理解し、具体的行動目標を挙げ、凡事徹底を図る。 ・学校全体、個人の達成度を自己評価し、それを視覚的に捉えられるようにする。	・全職員の理解のもと、共通実践と発達段階に応じた取り組みを行い、効果が出ている。児童玄関に「開成スタイルレベルアップ表」を掲示し、学校全体の取り組み状況を「見える化」し、意欲向上を図った。92.9%の児童が肯定的な回答を行っているが、内容の充実が今後の課題として残る。	・		・	こころ部 生徒指導主事 主幹教諭	
○地域連携教育の発展	○地域のひと・もの・ことを取り込んだ教育課程とふるさとのよさを実感する教育の推進	○学校評価アンケートで「学校や地域のよさが分かる」と答える児童75%以上をめざす。	A	・学級通信、学校便り、メール配信、HP掲載により積極的情報発信を推進する。 ・地域との連携により学習指導要領に沿った教育活動を推進する。	・地域ボランティアの新規募集並びに適切な更新手続によりボランティアの方々との連絡が密になり、活性化につながった。学校での学習や公民館活動を通して83.6%の児童が、学校や地域の良さを概ね理解している。今後、情報発信の頻度を高め、地域・家庭・学校のつながりをより深める。	・		・	主幹教諭	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------